

# リーブラ便り

2011年4月号 VOL. 23



リーブラのマークは、「男女平等」の願いをこめた「てんびん座（リーブラ）」をモチーフにしています。

## 目次

### 1. センターの事業について

#### 2. 講座案内

#### 3. 災害と女性特集

(1) さいたまスーパーアリーナ避難所レポート

(2) 災害と女性に関する情報コーナー

(3) 女性と避難所

#### 4. 運営協議会

#### 5. リーブラ相談室

#### 6. 男女平等参画情報

★別紙 4月の新着図書ご紹介

## 2. 講座案内

リーブラ主催 3回連続講座

『女性のための 家族を変える  
コミュニケーション』

## 1. センターの事業について

東日本大震災直後リーブラは業務を縮小して運営いたしました。実施される予定だった講座も満員御礼にも関わらず、お断りの連絡をさせていただくことになりました。

期間中は、皆様にご迷惑とご不便をおかけしましたこと、お詫びいたします。通常営業に戻ってからも、館内の不要な照明を落とすなどして節電をしております。利用者の皆様のご理解とご協力に深く感謝いたします。

また、これから電力使用のピークを迎える夏の期間中、どのような形で節電を実行するかについて、現在港区と検討中です。運営協議会のメンバーの意見も反映して、最終決定がなされますので、その際にはご理解・ご協力をお願いいたします。

なお、これから先も緊急のお知らせはリーブラのホームページで随時タイムリーに提供していく予定ですので、ぜひともホームページをご覧くださいませよう、よろしくお願ひいたします。

リーブラホームページ：

<http://www.minatolibra.jp/>

## 東日本大震災を機に

震災の被害を目の当たりにし、リーブラ便り4月号は急遽、『防災』について特集することにしました。今回の震災はこれまでの予想や予測を大きく超えるものでした。まだ、余震も続き、放射線の被害も予測のつかない不安な日々ですが、いざという時、皆さんのお住まいの地域の防災はどのような状況にあるのかご存知ですか？地域のことを決める防災会議に女性がどのような立場で参画するか、しているか？

防災計画に女性の視点が活かされているか？  
避難場所では女性や高齢者、外国人などへの配慮が十分なされているか？

今ならまだ計画に反映できることも多いのではないのでしょうか。地域によって異なる住民のニーズを、女性や子ども、高齢者の立場で防災計画に反映していくことは男女共同参画の観点からも、非常に大きな意味のあることなのです。皆さん、それぞれお住まいの地区で防災計画に関する情報を入手し、検討し、よりよい防災計画の策定に積極的に参画しましょう。

「どんな風に話したら伝わる？」  
「夫が分かってくれない・・・」「ご近所づきあいてむずかしい」「率直に自己表現したらケンカになるかも」——家族とのコミュニケーション、言わないでがまんしてしまうことはないですか。子育てにがんばりすぎていませんか。家族関係を変えたいと思う人のためのコミュニケーション講座です。3回連続講座で、わたしも家族もOKの自己表現を実践的に学びます。

日程：※3回出席をおすすめします。

①2011年5月16日（月）

「わたしも家族もOKの家族関係」

②2011年5月23日（月）

「わたしと家族の自己表現」

③2011年6月13日（月）

「家族にNOと言いたいとき」

講師：小柳茂子さん

相模女子大学教授

臨床心理士

フェミニスト・カウンセラー

時間：10:00～12:00

場所：4階 集会室3

参加費：無料

対象：女性（おもに子育て中の方）

定員：20名（要予約・先着順）

申込：電話・FAX・メール

保育：あり（無料） ※要申し込み  
（1歳から未就学児まで）

各回の保育申込締め切り日

①5月2日（月）②5月9日（月）

③5月30日（月）

### 3. 災害と女性特集

#### (1) さいたまスーパーアリーナ避難所レポート～女性支援の必要性～

震災後、各地に避難所が設置されました。そのひとつ、福島県からの避難者2,300人が収容されたさいたまアリーナ避難所に、弁護士や社会福祉士などによる震災支援ネットワーク埼玉(SSN)の呼びかけで、女性相談の専門グループ全国女性相談研究会(女相研)がボランティア相談に入り、リーブラ相談室のカウンセラーもボランティアの一員として活動しました。3月19日～31日、さいたまアリーナで女性支援の取り組みがどのようにされたのか、現場からの活動報告をご紹介します。

今後リーブラでは、震災後の女性と子どもの支援の必要性を、継続的に考えていく予定です。

.....

#### 全国女性相談研究会 吉祥眞佐緒さん

避難所には、家族と家族の間にはついても無く、マスコミが無神経にカメラを構えてその様子を撮っていました。プライバシーなど何も配慮されていない光景に愕然としました。毛布にくるまって着替えをする女性、丸見えの生活空間で壁の方を向いて授乳する女性、赤ちゃんや老人のおむつ替えも丸見えの生活空間の中で行われていました。私たちは「避難所にいる女性の声を届けよう」と、女性相談のブースを開設しました。“女性限定”と看板を掲げることで、小学生から70代まで約200人の女性に足を運んでもらうことができました。そこであがってきた声を毎日避難所に報告することで、埼玉県に避難所にいる女性と子どもの声が届き、避難所運営に反映させてくれました。女性の悩みは多岐にわたり、また複合的です。多くの関係者と連携しなければ解決に至らないケースが多いのです。女性特有の相談を受ける相談員は、ジェンダーはもとより周辺知識を学び続け、多角的な視点を持ち、多面的な関わりを要求されます。今回のさいたまアリーナのように、性被害やあらゆる暴力の防止やアドヴォケイトを行うことも必要でしょう。この東日本大震災をきっかけに、女性相談についてきちんと考えねばならないよい機会を与えていただけたと思います。私たち女相研は今後も腰を据えて被災女性の相談に関わりながら、女性相談とは何なのかを考えていきたいと思っています。

#### 全国女性相談研究会 弁護士・本間博子さん

震災に関する法律相談は、通常法律相談と少し異なります。震災後の初期は、とくに心理的ケアを意識して相談を聞くことが求められます。また、普段は使わないような知識や法律が求められます。アリーナの女性相談では、避難者の方のお話を自然に聞けるよう、ハンドマッサージをすることになりました。当初、法律相談や一般相談のブースには相談者がなかなか来ませんでしたが、女性相談のブースでは順番をお待ちいただく椅子が増えていきました。法律相談では、補償制度や預貯金、家や車等の相談に対して情報提供する活動が中心でしたが、女性相談では相談員の何気ない質問に対して避難者が思っていることを自由に話してくれました。女性相談にいる人は、表情がやわらかく、笑い声もありました。そんな中、アリーナに来る前の避難所で、性被害にあったけれど、もう慣れたという年若い女性や配偶者等によるDVを受けていると思われる方などがいらっしやいました。気兼ねなく話せる雰囲気があったからこそつかめた情報です。対策として、避難者が少しでも安全に安心して過ごせるよう、避難者の生活空間への避難者以外の立ち入りをできるだけ制限したり、女性用の更衣室を段ボール等で作って設置したり、継続的な支援のための相談窓口をご案内したり、少しずつ改善・対応していきました。避難所の支援物資の中には、女性用の化粧品などありませんでしたが、協力者から提供して頂いた化粧品の試供品を避難者の方にお渡しすると喜ばれていました。被災者の避難生活はまだまだ続き、そのニーズも多様化すると思いますが、まずは現場で相手の話を聞く、そして適切な支援をできるだけ継続的にする、そんな活動が続けられればいいと考えています。



#### リーブラ推進団体・SEDA ほんむら久美子さん

被災された2、300人の方が、さいたまアリーナで避難生活を始めたとき、頭に浮かんだことは、阪神淡路大震災の時に「避難所では女性の視点が全くない」ことが問題だったが、今回はどうなの? 「当事者目線の女性支援」ができています。でした。とにかく今は現場で動くこと。SEDAのメンバーも全国女性相談研究会のメンバーとしてアリーナに駆けつけました。そして、「女性限定相談ブース」を開設しました。喪失感・絶望感を抱え、混乱と不安の中プライバシーもない。入れ代わり立ち代わり見ず知らずの人から声をかけられ「もうほっといて!」とも言えない。特に女性は、必要以上に我慢を強いられていました。会話の中で「ふと」心がほぐれたら「ぼつぼつ」と、つらい気持ち、困っていることが口をついて出てきました。「こんなこと言ったら申し訳ないんだけど」と、遠慮がちに相談される内容は、どれもこれもないがしろにされてはいけない重大な事柄でした。避難所という特殊な環境では、「最低限の物理的生存」以外の要求は、「多くを望む」かのような遠慮が生じることが痛いほど理解できました。「女性の問題は表に出てこない＝女性の問題は無い＝無いのだから改善のための取り組みがされない」この悪循環を断ち切るためには、埋もれている女性の問題・女性のニーズを「待っているのではなくアウトリーチ」で掘り起こす必要があると痛感しました。張りつめた気持ちの所々に埋もれている、「人としての尊厳を守るためのHELP」をどう繋げていけばいいのだろうか? 私たちの取り組みは始まったばかりです。



【全国女性相談研究会の女性相談ブース】

-SEDA・全国女性相談研究会主催-  
避難所報告会「災害と女性」  
2011年5月15日(日)13時～  
リーブラ4F集会室  
どなたでも参加できます。  
お問い合わせ・予約先は・・・  
メール joseisoudan@yahoogroups.jp  
電話:090-2909-2196

## 全国女性相談研究会の女性相談に寄せられた女性避難者の声

- ・着替えがしづらい。
- ・前の避難所で性被害にあった。
- ・夫がイライラして怒鳴る。
- ・肌が乾燥する。
- ・食欲がない。便秘をした。
- ・一晩中明るくて夜眠れない。



## 避難所の運営に反映されたこと

- ・警察官の見回りが強化された。
- ・ガードマンの人数が増えた。
- ・女性用の更衣室が設置された。

## 女相研による取り組み

- ・毎日継続的に女性相談を行った。
- ・マッサージやネイルケアなどをしながら相談できるようにした。
- ・ハンドマッサージでリラックスしてもらいながら話を聞いた。
- ・性被害やDV被害を未然に防ぐためにジェンダーの視点からの意識啓発を相談の中で行った。
- ・化粧品などの試供品を配布した。
- ・希望者にアイマスクや耳栓を渡した。
- ・小学生から高校生までは男女問わず相談を受けた。



【避難所となったさいたまアリーナ】

## (2) 災害と女性に関する情報コーナー

### 内閣府より～女性に対する災害対応指針～

平成23年4月内閣府より「女性や子育てのニーズを踏まえた災害対応について」の指針が出されました。

<http://www.gender.go.jp/saigai.html>

以下ホームページより一部抜粋

1. 暴力相談窓口、女性相談窓口の周知
2. ボランティアの安全
3. 避難所の運営における女性の意見の反映
4. 避難所等における好事例
  - ・ 女性・子供に対する防犯ブザーやホイッスルの配布
  - ・ 屋外トイレ周辺の夜間照明
  - ・ 自警団による避難所及び住宅周辺の見回り
  - ・ 外から見えない女性下着等の洗濯物干し場

### 民間団体「災害と女性情報ネットワーク」

1992年に設立されたウィメンズネットこうべが母体となり阪神大震災を経て設立された民間団体。女性の視点からの災害の検証を行っています。

<http://homepage2.nifty.com/bousai/>

### その他「災害と女性」関連情報

地方自治体や民間団体による、災害と女性関連の情報、資料です。

### 大分県「女性の視点による防災指針作成事業」資料

「災害の被害を受けやすい女性」「防災・災害復興の担い手としての女性」双方の立場からまとめられています。  
<http://homepage2.nifty.com/bousai/iichitai.html>

### 「わたしの防災カノート」男女共同参画センター横浜南

実際に震災を経験した女性たちの声を元に災害時の不安、課題を整理。  
<http://www.women.city.yokohama.jp/pdf/bousainote2.pdf>

### 災害と子どもの心のケア

災害で傷ついた子どものケアについての留意点をまとめています。  
<http://plala1129.blog87.fc2.com/blog-entry-36.html>

### 乳幼児を持つ家族を支えるために

阪神淡路大震災の経験を元に、災害が母子の心身に与える影響についてまとめられた資料です。  
<http://www.hanshink-kodomoqa.jp/community/shinsai.pdf>

## (3) 女性と避難所 (港南防災ネットワーク)

港南防災ネットワークは、港南地域の住民防災組織や、町会、自治会、マンション管理組合、事業所などが互いに連携協力して、港南地域の安全確保に寄与するために組織されたもので、設立以来14年を経過しています。設立以来、毎年の港区総合防災訓練では、企画から実施まで中心的な役割を果たし、特に「在宅被災者」や「帰宅困難者」のための「避難所生活訓練」に重点を置いた活動に取り組んでいます。

今回の東日本大震災では、多くの帰宅困難者が「避難所」で一晩を過ごしましたが、避難所を利用した地域住民はごく少数で、しかも一晩だけであったことから、大きな混乱もなかったと聞いています。しかし、東京が直接の被災地であれば、地域住民が長期間にわたって避難所での生活を余儀なくされること

を思うと、この避難所の運営にあたっては、一人ひとりがそれぞれの特性に応じた役割を果たしていかなければならないことは当然ですが、あわせて、女性の立場から配慮しなければならない課題に改めて思いを起こしました。

避難所では、一人ひとりの人権が配慮されることが難しく、プライバシーのない場所で我慢することを余儀なくされます。大勢の被災者が共同生活をする中で、食事の準備や介護、育児などを当然のごとく女性が担うことになり、避難生活が長くなるほど多くの女性たちはいろいろな面でストレスを抱えてきます。プライバシーのない場所での授乳や着替え場所の確保、トイレ風呂場の位置、妊産婦への配慮、支援物資の生理用品やおむつの整理など、避難所での生活には女性の視点からの対応が必要になります。昨年の訓練では、港南中学校の女生徒と一緒に体育

館に「授乳室や着替え」が行える場所などを設置し説明をおこないました。

また、災害時、女性は男性より被害を受けやすく、DVや性暴力といった被害に遭う危険性もあり、避難場所は目に見えないジェンダーが明らかになる場でもあることを考慮して「避難所運営」に当たることが大切だと思います。

運営協議会委員 南 かほる



【港区総合防災訓練における炊き出し訓練】

## 4. 運営協議会

### 新年度にあたって

運営協議会の運営で心がけていること。それは、「すべての人が人権を保障され、性別により差別されずに、一人一人の人権がかけがえのないものとして尊ばれる社会の実現」という条例の精神です。運営協議会委員はそれぞれ、立場や背景を異にするため、意見の相違や、時に反発する場面もあるかもしれません。

そういう時こそ、条例の精神に立ち返ることが大切だと考えます。一人一人を尊重し、互いの意見に耳を傾ければ、気持ちを通じあはす。心を一つに知恵を出し合えば、どんなことも乗り越えていけると信じています。

今後とも、男女平等参画施策の拠点施設として、リーブラがしっかりと役割を果たしていけるよう、委員の皆様と力を合わせて取り組んでまいります。

港区・人権男女平等参画担当課長  
若井世台子

### 平成23年度 第1回運営協議会

4月14日、運営協議会が開催されました。

#### 【議題】

- (1)港区からの報告
  - ①震災に伴う23年度事業の対応について
- (2)リーブラからの報告
  - ①フェスティバル実施報告
  - ②フォーラム進捗状況
  - ③1月、2月、3月の事業報告
  - ④23年度事業計画について
  - ⑤交流懇談会について  
(5/13、5/14)
- (3)区民派遣について報告
- (4)その他

22年度、リーブラは区民との協働に重点をおき、事業に取り組んでまいりました。そうしたことでこれまで以上に課題が具体的に見えてきたよう思います。本年度、運営協議会ではこれらの課題を共有し協議の上、整理していきます。施設運営に関しては、地震や電力事情を考慮しての対応となりますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

## 5. リーブラ相談室

心のサポートルーム便り

22年度のリーブラ相談室の相談件数は1,000件を超えました。相談内容で多かったのは「家族関係」で、全体の3割以上を占めていました。とくに家族関係に悩んでいる女性が多いことが分かりました。家族の中で最も多かったのは「夫婦」についての相談、次いで「親子」「DV」の順で高い割合を占めました。とくにDV相談は、21年度から大幅に増加しました。そこで今年度のリーブラ主催事業では、相談室発信企画として、家族関係をテーマの講座を企画しました。5月開催の「女性のための 家族を変えるコミュニケーション」は、家族関係をより良く変えていくためのコミュニケーションを、3回連続講座で学べます。ぜひご参加ください。

#### <開室曜日・開室時間>

火曜日 16:00～20:00

水曜日 10:00～16:00

金曜日 10:00～16:00

金曜日 18:00～21:00

**03-3456-5771 (専用)**

※ご予約やお問い合わせも

専用電話にご連絡ください。

## 6. 男女平等参画情報 女性と震災～内閣府から～

内閣府男女共同参画局は、今回の震災に対して「女性や子育てのニーズを踏まえた災害対応（避難所等での生活に関する対応の依頼）」（3月16日、3月24日一部修正）、「女性被災者に対する相談窓口の設置及び周知並びに懸念される女性に対する暴力への対応について」（3月24日）、「東日本大震災に関しての女性や子育てのニーズを踏まえた被災者支援等について」（4月4日）という通達を関係機関に出しています。生理用品、おむつ、粉ミルクなどの必要物資、女性や子育てに配慮した避難所の設営、避難所の運営体制への女性の参画、女性に対する暴力を防ぐための措置等、災害支援において女性の視点を導入することを求めている。昨年12月に閣議決定された第3次男女共同参画基本計画の中でも、第14分野-4「防災における男女共同参画の推進」に、防災分野における女性の参画の拡大、防災の現場における男女共同参画が、具体的施策として上げられています。

実際、これらの通達が確実に実施に結びついているのかどうか、被災地で今、どんな問題が発生しているのか、実際には何が求められているのか、私たちは常にチェックをしていく必要があります。過去の災害時に発生した女性をめぐる問題を教訓として生かしつつ、今起きている問題に柔軟に対応していきたいと思えます。



男女平等参画センター「リーブラ」3～5階

|        |   |
|--------|---|
| 発行元    | 港区立男女平等参画センター リーブラ  |
| 住所     | 〒108-0023 港区芝浦3-1-47  |
| TEL    | 03-3456-4149  |
| FAX    | 03-3456-1254  |
| HP     | <a href="http://www.minatolibra.jp/">http://www.minatolibra.jp/</a> |
| 施設利用時間 | 月～土曜日 9:00～21:30<br>日曜日 9:00～17:00<br>* 祝日はその曜日に合わせての開館となります。       |
| 窓口受付時間 | 月～土曜日 9:00～20:00<br>日曜日 9:00～16:00                                  |

発行日:2011年4月25日